

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



第189回定期演奏会
The 189th Regular Concert



語りと音楽

Tales with music



2007年
11月17日(土)
午後2時開演
(1時30分開場)
第一生命ホール

- ：主催：特定非営利活動法人日本音楽集団
NPOトリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール
- ：助成：平成19年度文化庁芸術創造活動重点支援事業
- ：協力：株式会社アートン



- ◆ 日本音楽集団： <http://www.promusica.or.jp/> E-mail office@promusica.or.jp
- ◆ トリトン・アーツ・ネットワーク： <http://www.triton-arts.net>

「竹取物語」誕生から31年 そして「ヘチとかいぶつ」へ

田村拓男

第189回定期演奏会～「語りと音楽」によるこそお越しくございました。

日本音楽集団は、これまでの定期演奏会や数多くの学校公演、一般公演で様々なコラボレーションを行ってきました。「語りと音楽」もその一つで、琵琶の弾き語りには別に「八郎物語」「ごんぎつね」「百物語」「耳なし芳一」「しゃみ猫博士の冒険」「ごろごろ閣下の冒険」などなど…。思えば数多くの作品が誕生していることになります。

【竹取物語】	【ヘチとかいぶつ】
中でも「竹取物語」は「八郎物語」に次ぐ公演回数があり、今や日本音楽集団大編成による代表的作品となっています。途中、音楽や台本について作者や作曲家、語りの稲垣氏らによる数回の改作が加えられ、今日に至っています。	昨年(2006年)3月、育児支援コンサート(NPO トリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール主催)で韓国の絵本「ヘチとかいぶつ」に出会い、音楽には韓国の作曲家朴範薫(パク・ボンポン)の作品「シナウイ」を使用しました。朴氏(ソウル・オリンピックの音楽監督)は日本音楽集団を手本にして韓国の民族楽器の合奏団を結成し、後に朴氏の提唱で1993年、日本(日本音楽集団)、中国(中国中央民族楽団)、韓国(韓国国立国楽管弦楽団)によるオーケストラ・アジアを創立、以来、数回の韓国公演や日本公演をし、朴氏に日本音楽集団の作品を委嘱するなど交流を深めています。
初演が1976年、第35回定期演奏会(朝日生命ホール)～語りと音楽による“楽しい邦楽演奏会”／企画構成:長沢勝俊 ですから、もう31年前の作品ということになります。	「ヘチとかいぶつ」の語りには、NHKの韓国ドラマ「宮廷女官チャングムの誓い」のトックおじさん役(声優)を演じた佐々木梅治氏を迎えるなど、第一生命ホールにちょっとした韓流ムードが漂うことに不思議な因縁を感じています。
台本は、国文学に造詣が深く創作舞踊の台本に数多くの名作を発表されていた故海津勝一郎氏によるものです。海津氏は当日のプログラムに次のように述べています。(要約)	お楽しみ頂けたら幸いです。
『この名作を音楽に移すにあたって、最初は原作の通りにと思いましたが、作曲者の長沢さんは腕によりをかけて新鮮な音づけをするに違いありませんし、語りの稲垣さんは舞台上で鍛えた朗唱術を駆使してユニークなお喋りをするのは明らかです。それなのに台本ばかりが原作のままではちと頼みであり、原作ではかぐや姫は人間の男達の嘘と無能に失望して天に帰るところを、折角この世に下ってきた天女様に人の世の尊いものを何か一つ見つけて昇天して欲しかった…それが脚色の動機です』と。	

プログラム

一、新八千代獅子 藤永検校作曲／畦地啓司・藤舎呂船・三木稔編曲(1976年)

Shin Yachiyo Jishi, comp.by Fujinaga Kengyo, arr.by Azechi Keiji, Tosya Rosen & Miki Minoru

[笛] 竹井誠 [尺八] 渡辺淳・原郷隆
[胡弓] 多々良香保里 [三味線] 穂積大志 [琵琶] 久保田晶子
[箏] I 桜井智永・彦坂恵美 II 熊沢栄利子・高橋はるな・渡辺正子
[十七絃] 久本桂子・佐藤里美
[打楽器] 尾崎太一・盧慶順・島村聖香

二、南道アリラン 白大雄(ペク・デイウ)作曲／秋岸寛久編曲(1996年)

Nam-do Arirang, comp.by Baik Dae Ung, arr.by Akigishi Hirohisa

三、韓国の絵本 ヘチとかいぶつ

文：チョン・ハソプ

絵：ハン・ビョンホ

訳：おおたけきよみ

Hechi and the Monsters, auth.by Chon Hasopu, painted by Han Byonho, translated by Otake Kiyomi

音楽：日本楽器によるシナウイより 朴範薫(パク・ボンブン)作曲(2000年)

Shinawi for Japanese instruments, comp.by Park Bum Hoon

語り：佐々木梅治(客演)

[笛] 西川浩平 [尺八] I 米澤浩 II 原郷隆 III 渡辺淳
[三味線] 山崎千鶴子・穂積大志 [琵琶] 首藤久美子・久保田晶子
[二十絃] I 熊沢栄利子・渡辺正子 II 桜井智永・彦坂恵美
[十七絃] 宮越圭子・久本桂子
[打楽器] 仙堂新太郎・高橋明邦・盧慶順
[指揮] 田村拓男

・・ 休憩

四、竹取物語～龍女の玉～ 海津勝一郎作・長沢勝俊作曲(1976年)

The Tale of the Bamboo-Cutter : Ryujo no Tama (Treasure of a legendary princess),
comp.by Nagasawa Katsutoshi, words by Kaizu Katsuichirou

語り：稲垣隆史(客演)

[二十絃・プリマ] 山田明美
[笛] 西川浩平 [箏] 西原祐二 [笙] 三浦礼美(助演)
[尺八] I 米澤浩 II 渡辺淳 III 原郷隆
[細棹三味線] 箕田弘大 [太棹三味線] 工藤哲子 [琵琶] 首藤久美子
[箏] 桜井智永・高橋はるな
[十七絃] 宮越圭子・佐藤里美
[打楽器] 尾崎太一・高橋明邦・仙堂新太郎
[指揮] 田村拓男

曲目解説

一、新八千代獅子

「八千代獅子」とは、もとは尺八の楽曲であったものを、18世紀半ばに藤永検校が三味線に移曲、後に箏の手が加えられ、当時の流行曲として伝承されてきたものです。原曲では、「前唄」、唄のない器楽部分の「手事」、「後唄」に分かれます。さらに「手事」部分は三段で構成され、各段とも類似の旋律を反復します。古くから歌舞伎の下座音楽（歌舞伎囃子）にも用いられ、現在までに多くの作曲家、演奏家によって、さまざまな編曲作品が生み出されてきました。

「新八千代獅子」は、唄の部分を管楽器が歌い、長唄囃子の「獅子」や、琵琶、十七絃などを採り入れる等、日本音楽集団の編成に手付し、新たな純器楽として構成されています。1976年、日本音楽集団の伝統音楽演奏会にて初演されました。

二、南道アリラン

「アリラン」といえば思い浮かぶメロディーがありますよね。しかし「アリラン」は一つだけではないのです。朝鮮半島では地方地方にそれぞれのアリランがあって、異なるメロディー、異なるリズムで歌われているそうです。この「南道アリラン」も私たちのよく知っているメロディーとは異なるものですが、やはり随所に「韓国らしさ」があふれています。哀愁を帯びた行きつ戻りつするようなメロディー、執拗に繰り返される伴奏形に乗ったシンプルで力強いメロディー。そしてなんといってもそのリズムが我々の日本民謡とは大きく異なります。一拍を3つに分割するリズムや、2×3と3×2が交互に現れる6拍子などなど、初めから終わりまでまさに韓国音楽です。そんな民族色の強い音楽を日本の伝統楽器で演奏してもさほどの違和感もなくその世界に入って行けるのはやはり隣国だからでしょうか。皆さんも難しいことは考えずに、ぜひどっぷりと浸ってみてください。

（秋岸寛久）

三、韓国の絵本 ヘチとかいぶつ

韓国の絵本「ヘチとかいぶつ」の朗読に、音楽を合わせる試みは、2006年3月NPOTリトーン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール主催：育児支援コンサート「子どもを連れてクラシックコンサート」にて初演されました。スライド投影された鮮やかな色使いの「かいぶつ」たちと、朗読・音楽が融合した、迫力ある舞台が展開されます。

日本楽器によるシナウイ

この作品は、2000年11月「第161回定期演奏会 ASIA新世紀へ～協調と融合～」にて作曲され、作者の指揮により初演されました。

「シナウイとは、ソウル以南（京畿道、忠清道、全羅道）の世襲巫（シャーマン）のクッ（儀式）に伴う音楽、またそれに基づいた音楽のことである。遅いテンポから速いテンポへ進行する長短（チャンダン＝周期性を持つリズム）の形式に合わせながらそれぞれの楽器が即興的に演奏していく形式を持っている。あたかも靈魂の叫びを連想させるような悲痛な調子の音楽である。今回の＜日本楽器によるシナウイ＞は、韓国音楽の元祖とも言われるシナウイを日本楽器に乗せて展開させようと試みた作品である。」（初演プログラムより）

四、竹取物語～龍女の玉～

この作品は、1976年7月の第35回定期演奏会にて初演されました。わが国最古の古典と言われている物語を、国文学に造詣の深い海津勝一郎氏が大胆に脚色した、悲しくも美しい物語です。各楽器にそれぞれの人物を当てはめ（かぐや姫は二十絃箏、少将の君は篠笛、龍女は琵琶など）楽器と語りの掛け合いの中で両者の有機的な結びつきを目指したものです。特に二十絃箏はかぐや姫の分身として、語りとともに主役をつとめることとなります。

<ほーっと明るく光る竹の中より生まれたかぐや姫・・・、竹取の翁に見いだされたかぐや姫は、やがてみまごうばかりに美しく成長します。そこには姫欲しさや、婿になりたやと多くの男たちが押し寄せ、中でも五人の熱烈な求婚者、倉持の御子、髭黒の右大臣、石づくりの皇子、石上の中納言、蔵人の少将には、とうとう難題が与えられることとなります。求婚者たちがつぎつぎに失敗していく中、龍神の玉を持ち帰ることを命ぜられた蔵人の少将だけが帰ってきません・・・>

初演以来、語りには毎回、劇団民藝の稲垣氏にお願いしています。日本音楽集団では、これまでも多数の語りを伴う作品を創出していますが、その多くは稲垣氏の語りによって初演されています。

稲垣隆史 (劇団民藝) (いながき たかし)



俳優座養成所卒業後、劇団民藝に入団、宇野重吉演出「檻」でデビュー。同時に多くの日活映画、テレビドラマに出演するも、その後舞台に専念。

主な舞台は「炎の人ゴッホ(芸術祭大賞)」のロートレック、「どん底」の役者、「セールスマンの死」のハッピー、「終末の刻」の山田右衛門作、「るつぼ」のヘイル牧師、「俳諧師」の路通、「アンネの日記(芸術祭選奨)」のデュッセル、「巨匠」のピアニスト等を演じ、その他メキシコ演劇祭に招かれ「山椒大夫」の厨子王役で南米各地を巡演、先年スウェーデン大使館の主催で九曲の歌とモノローグで綴る、かの国の国民的作家ストリンドベリーの愛と別れを描いた一人芝居「糞つたれ!」を演じた。

又、日本音楽集団に屢々語り手として招かれ「竹取物語」をはじめ、「ごんぎつね」「百物語」「砂漠に消えた王(オイディプス王より)」「八郎物語」などに客演。他にも国内外の演奏家と語りで共演「スーホーの白い馬(馬頭琴)」「杜子春」「雨月物語」「戦場のピアニスト」などがある。

佐々木梅治 (劇団民藝) (ささき うめじ)



北海道置戸町生まれ。北見市立南中学校、道立北見北斗高校卒業。立命館大学卒業。1973年、劇団民藝入団。民謡からシャンソン、茶道、狂言、クラシックバレエまで関心が高く、古典劇でも現代劇でも幅広い役を演じている。また、宇野重吉一座の九州公演中、宇野の代役で14回「三年寝太郎」を努める。近年では、「夜明け前」「子午線の祀り」(共に新国立劇場)、「山神様のおくりもの」(わらび座公演)などに出演。その他、声優として「相続人」「トイストーリー・2」「JSA」「パイレーツ・オブ・カリビアン」、韓国ドラマ「オール・イン」「チャングムの誓い」にレギュラー出演するなど、役柄によって多彩な声を聞かせている。現在、井上ひさし作「父と暮せば」の一人語りで、全国公演中。

